

若者・子育て世代を呼び込む！

～「住みやすい」「住みたい」まちを目指して～

かじや班

苅田町 山本

宗像市 梶原

田川市 賀門

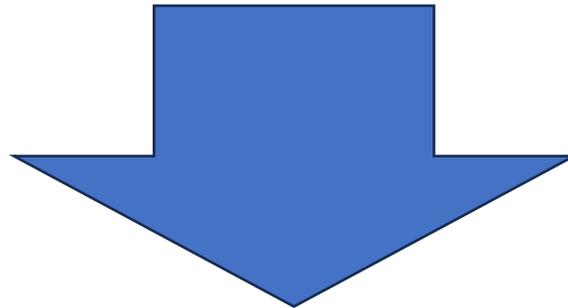
1. 理想の姿
2. 現状の分析
3. 課題
4. 課題の検証（データの分析）
5. 課題の検証（視察）
6. 具体的な提言

自治体として継続するために、

**若者・子育て世代の
「住みやすい」「住みたい」まち**

を目指す

「住みやすい」「住みたい」まちを
定量的な表現へ

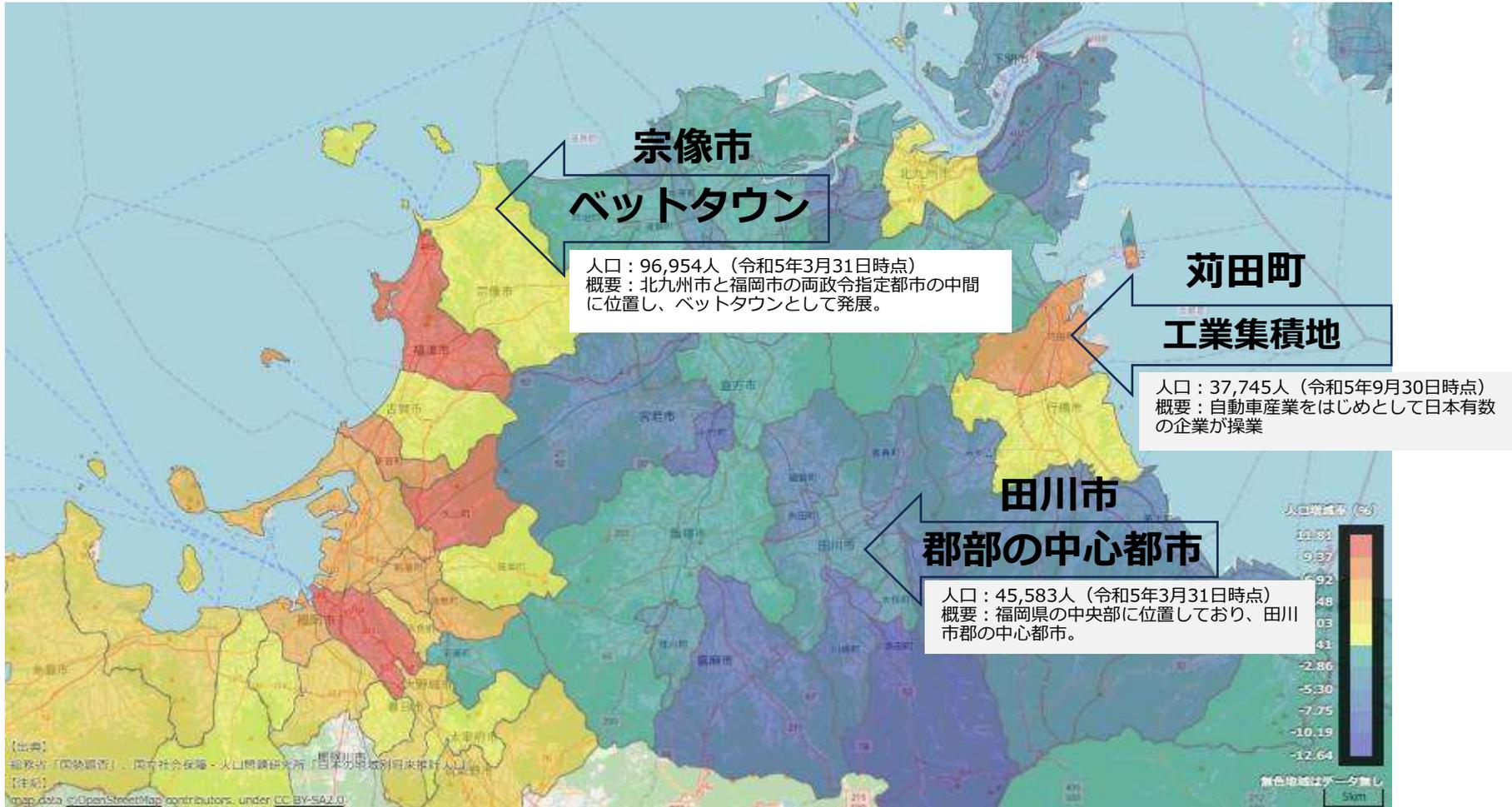


転入・定住者数が増加するまち

現状は？

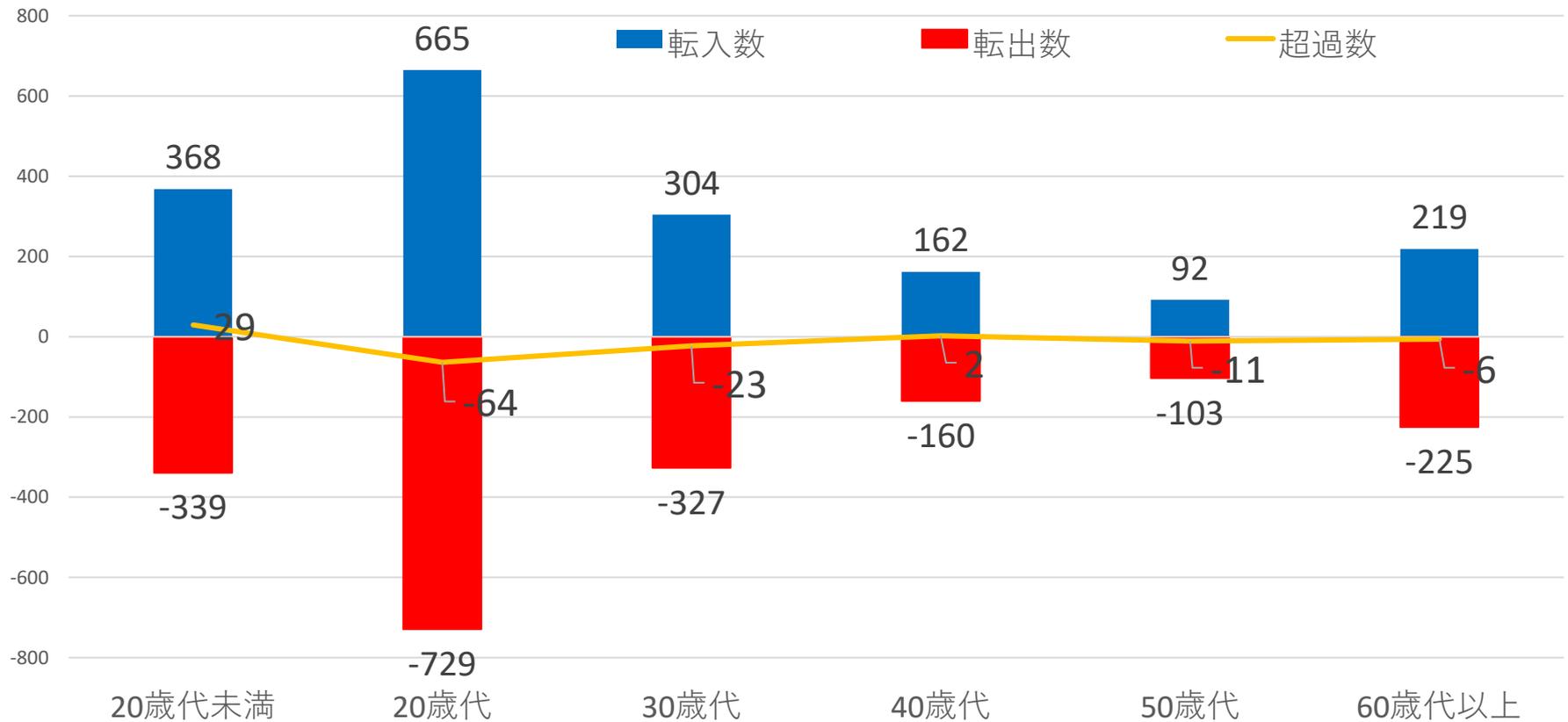
自分たちの自治体を参考に検証。

現状の分析



現状の分析（年代別転入・転出人口調査）

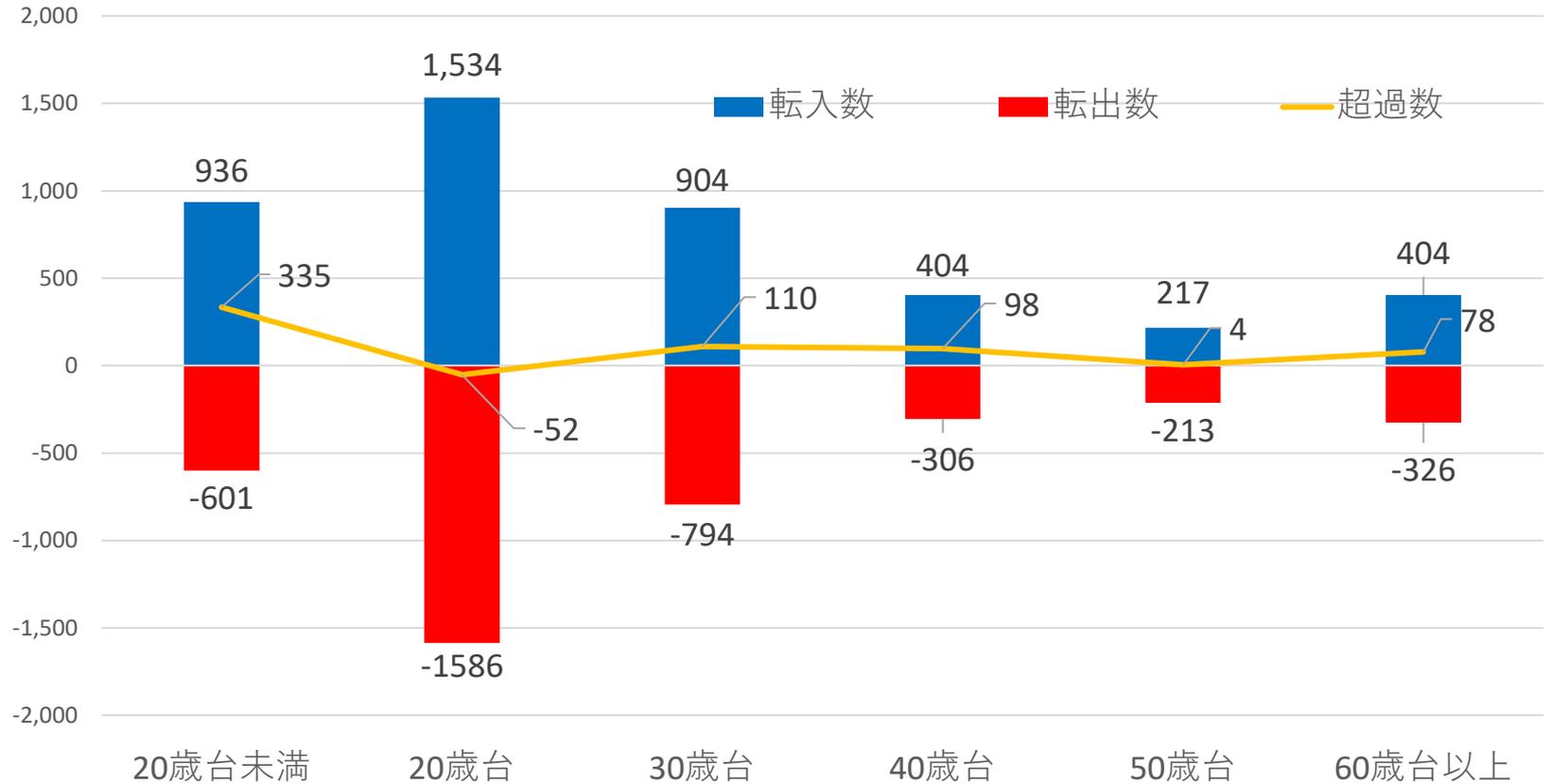
● 田川市



【参考文献】 RESAS（2022年調査）

現状の分析（年代別転入・転出人口調査）

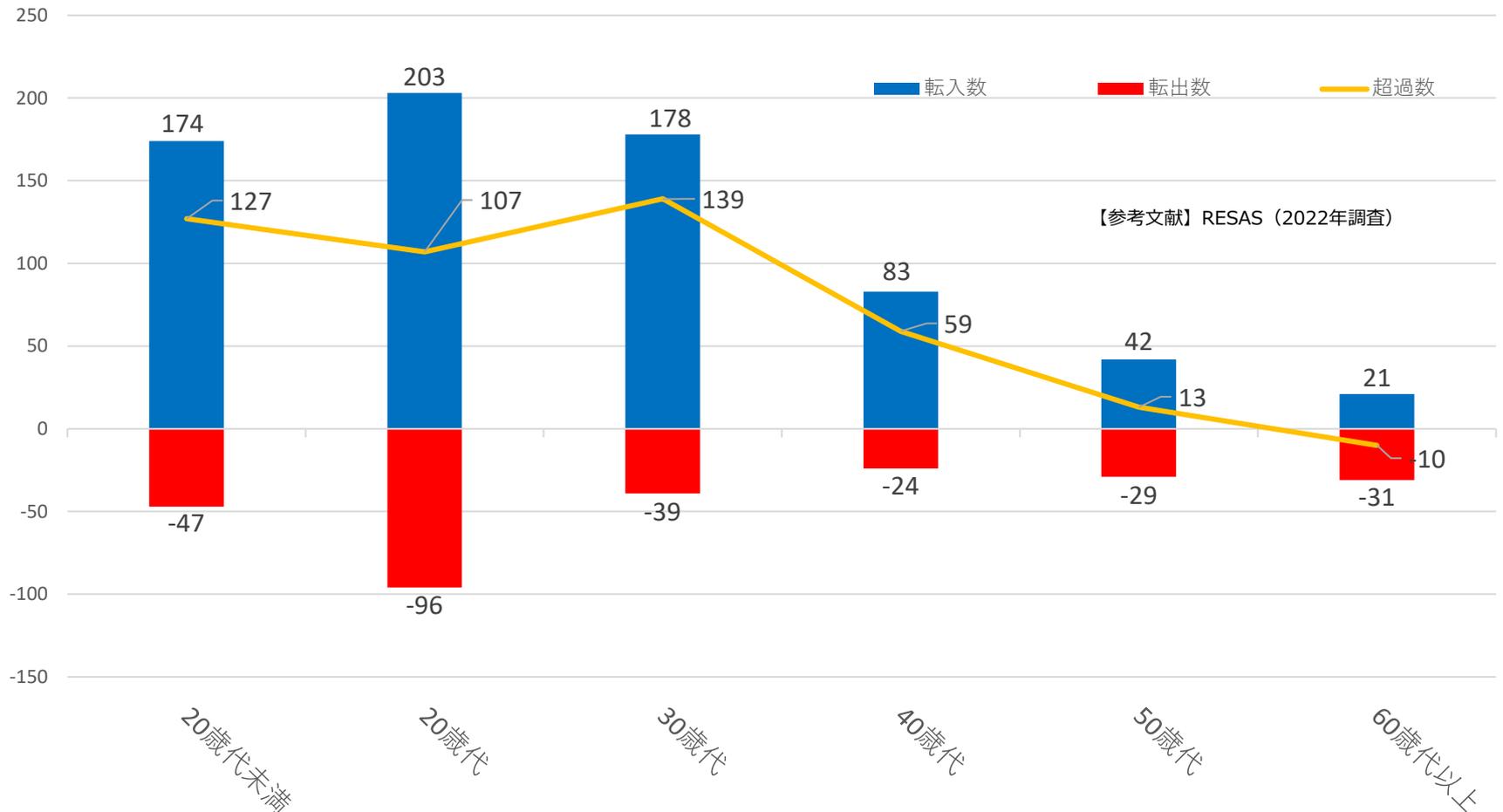
● 宗像市



【参考文献】 RESAS（2022年調査）

現状の分析（年代別転入・転出人口調査）

● 苅田町



【参考文献】 RESAS（2022年調査）

結果

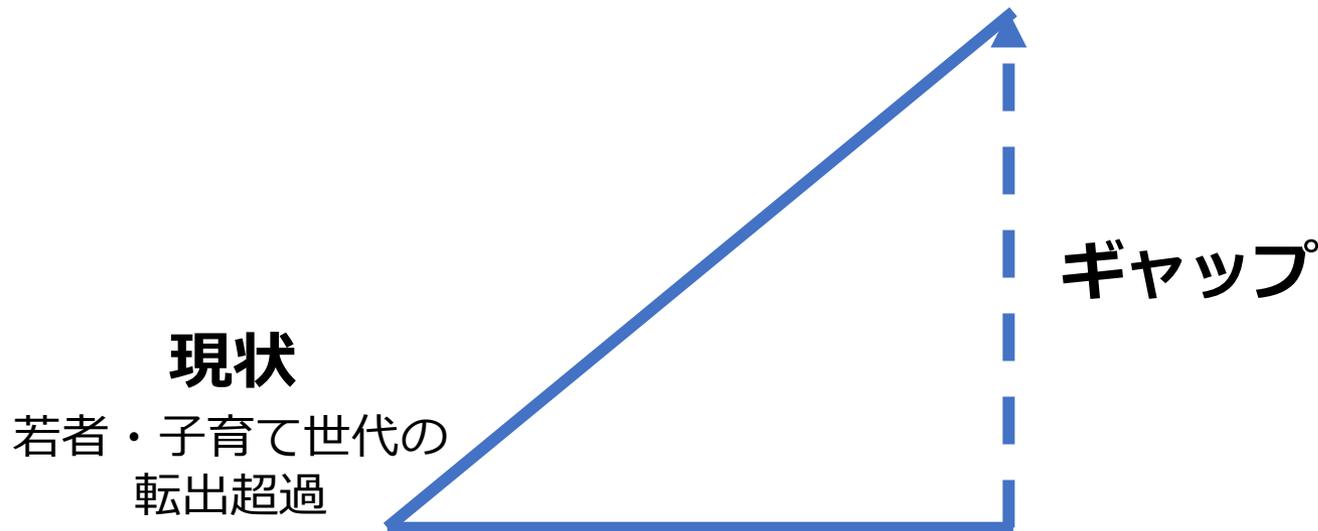
田川市、宗像市では「若者・子育て世代」の転出超過が目立つ。
苅田町では、「若者・子育て世代」は特段流出していない。

考察

- ・「住みたい」まちに必要なのは仕事・環境。
- ・地政学的な差はどうすることもできないのか。

理想の姿

若者・子育て世代の転入超過
「住みやすい」「住みたい」まち



「若者・子育て世代」を呼び込むための
雇用創出・住環境改善
現在の仕事量、地政学を乗り越える！

社会増減要因の分析を行う。

検証1 転入理由

田川市：

転入者8名（複数回答）

理由	詳細	人数	転入前市町村（延べ）
自分や家族の結婚		1	北九州市
親や祖父母と同居・近居		3	糸田町(1)添田町(2)
自分や家族の進学		0	
子との同居・近居		1	香春町
よりよい生活環境を求めて	仕事環境（就職・転職・転勤、職場に近い、等）	3	糸田町、飯塚市、福智町
	住環境（持ち家を新築又は購入、利便性が良い、等）	1	添田町

宗像市：

R4古家建替え補助制度利用者アンケート2名

R4,5中古住宅購入補助制度利用者アンケート3名（複数回答）

理由	人数	転入前市町村（延べ）
気に入った土地（住宅）が見つかったから	3	北九州市、福岡市、福津市
教育や子育て環境が良いから	2	宮若市、福津市
公園、緑、自然が多いから	2	福津市、直方市
宗像市出身だから	2	宮若市、直方市
身内が宗像市にいるから（親や子どもなど）	1	直方市
住宅や土地の価格が手頃だったから	1	福津市
文化施設などが充実しているから	1	直方市

キーワード

ライフイベント

住環境

検証2 転出理由

田川市：

転出者7名（複数回答）

理由	詳細	人数	転出先市町村（延べ）
自分や家族の結婚		0	
親や祖父母と同居・近居		1	直方市
自分や家族の進学		2	飯塚市、福岡市
子との同居・近居		0	
よりよい生活環境を求めて	仕事環境（就職・転職・転勤、職場に近い、等）	4	福岡市(2)大野城市(1)広島市(1)
その他	他地域へ転勤になったため	1	広島市

キーワード

住環境

検証3 転入元・転出先（2022年度、20歳台）

田川市（転出超過数：64人）							
転入数内訳（人）				転出数内訳（人）			
総数		665	100.0%	総数		729	100.0%
1	福岡市	99	14.9%	1	福岡市	114	15.6%
2	北九州市	59	8.9%	2	北九州市	68	9.3%
3	福智町	31	4.7%	3	飯塚市	50	6.9%
4	糸田町	26	3.9%	4	川崎町	25	3.4%
5	飯塚市	26	3.9%		香春町	25	3.4%
6	川崎町	16	2.4%		直方市	25	3.4%

出典）RESAS「人口マップ（人口の社会増減）」

- ・ 田川郡とは転入超過、田川地域外とは転出超過

検証3 転入元・転出先（2022年度、20歳台）

宗像市（転出超過数：52人）							
転入数内訳（人）				転出数内訳（人）			
総数		1,534	100.0%	総数		1,586	100.0%
1	福岡市	276	18.0%	1	福岡市	354	22.3%
2	北九州市	186	12.1%	2	北九州市	156	9.8%
3	福津市	88	5.7%	3	福津市	66	4.2%
4	古賀市	52	3.4%	4	岡垣町	36	2.3%
5	岡垣町	34	2.2%	5	古賀市	32	2.0%
6	苅田町	25	1.6%	6	熊本市	29	1.8%

出典) RESAS「人口マップ（人口の社会増減）」

- ・ 転出超過となっているが大きな差はない

検証3 転入元・転出先（2022年度、20歳台）

苅田町（転入超過数：107人）							
転入数内訳（人）			転出数内訳（人）				
総数	1,143	100.0%	総数	1,036	100.0%		
1	北九州市	214	18.7%	1	北九州市	196	18.9%
2	福岡市	100	8.7%	2	行橋市	124	12.0%
3	行橋市	81	7.1%	3	福岡市	66	6.4%
4	中津市	44	3.8%	4	中津市	26	2.5%
5	大分市	25	2.2%	5	宗像市	25	2.4%
6	久留米市	20	1.7%	6	横浜市	17	1.6%

出典）RESAS「人口マップ（人口の社会増減）」

- ・ 行橋市以外は転入超過
- ・ 就労を考慮した転居

検証4 日中の流入、流出人口（2020年度、通勤者・通学者）

田川市（流入超過数：3,884人）							
域内への流入者数内訳（人）				域外への流出者数内訳（人）			
	総数				総数		
	12,391	100.0%			8,507	100.0%	
1	川崎町	1,597	12.9%	1	飯塚市	1,438	16.9%
2	福智町	1,586	12.8%	2	北九州市	1,018	12.0%
3	飯塚市	1,550	12.5%	3	川崎町	819	9.6%
4	香春町	1,033	8.3%	4	福智町	775	9.1%
5	糸田町	1,018	8.2%	5	直方市	671	7.9%
6	北九州市	949	7.7%	6	香春町	665	7.8%
7	添田町	840	6.8%	7	福岡市	432	5.1%

出典) RESAS「まちづくりマップ（通勤通学人口）」

- ・ 田川市が田川郡部における就業・就学の場としての一定の役割を担っている

検証4 日中の流入、流出人口（2020年度、通勤者・通学者）

宗像市（流出超過数：13,880人）							
域内への流入者数内訳（人）				域外への流出者数内訳（人）			
総数		9,558	100.0%	総数		23,438	100.0%
1	福津市	2,400	25.1%	1	福岡市	7,224	30.8%
2	福岡市	1,583	16.6%	2	北九州市	3,826	16.3%
3	岡垣町	992	10.4%	3	宮若市	3,076	13.1%
4	北九州市	963	10.1%	4	福津市	2,711	11.6%
5	古賀市	935	9.8%	5	古賀市	1,945	8.3%
6	宮若市	358	3.7%	6	新宮町	674	2.9%
7	新宮町	290	3.0%	7	岡垣町	593	2.5%

出典）RESAS「まちづくりマップ（通勤通学人口）」

- ・日中は流出超過となっている
- ・現在もベットタウンとしての要素が強い

検証4 日中の流入、流出人口（2020年度、通勤者・通学者）

苅田町（流入超過数：7,935人）							
域内への流入者数内訳（人）				域外への流出者数内訳（人）			
総数		15,255	100.0%	総数		7,320	100.0%
1	北九州市	6,155	40.3%	1	北九州市	3,702	50.6%
2	行橋市	5,240	34.3%	2	行橋市	2,141	29.2%
3	みやこ町	985	6.5%	3	みやこ町	388	5.3%
4	築上町	547	3.6%	4	豊前市	198	2.7%
5	豊前町	343	2.2%	5	築上町	193	2.6%
6	田川市	230	1.5%	6	福岡市	157	2.1%
7	中津市	210	1.4%	7	田川市	105	1.4%

出典）RESAS「まちづくりマップ（通勤通学人口）」

- ・仕事による日中の求心力が際立っている

まとめ

田川市：郡部の中心都市

20歳代の転出超過が大きい

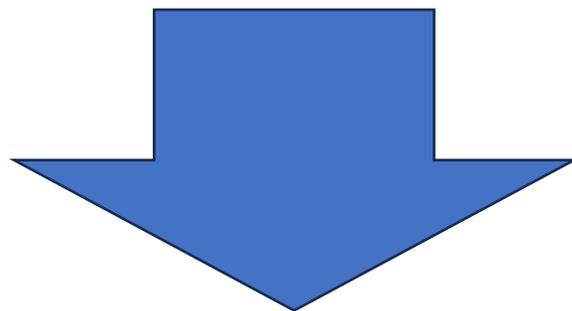
宗像市：ベットタウン

日中の流出超過が大きい

苅田町：工業集積地

20歳代の転入超過が大きい

ベットタウンは仕事による求心力が無い
悪化の一途をたどる可能性大



先進自治体へ視察に行く

若者・子育て世代で社会増となっている先進自治体

● 奈良市

- 2022年の**転入超過数**は**過去10年で最大**
- **共働き子育てしやすい街ランキング**関西**1位**
(日本経済新聞社・日経BP「日経xwoman」)
- **年少人口(0～14歳)の転入超過数**は**関西1位**
(4年連続の転入超過)

奈良市の取り組み

➤ 施策の方向性を統一

- ✓ 目指すは「子育てするなら奈良」
- ✓ 社会に出ても、いつか戻ってきたくなるまちづくり

➤ 戦略的に施策を展開

近隣市にある大学への進学が多く、15~19歳の社会増減対策はしない

➤ 展開中の施策

コットベッド導入、手ぶら登園導入、お試し移住支援制度、オンライン移住相談、公園トライアル・サウンディング 等

成功要因を分析

➤ **自分たちのまちを分析** 👉 首長、企画部門

- ✓ 近隣市に敵わない部分は潔く任せる
- ✓ まちの良さを尖らせ、方向性を定める



➤ **一意に集中した取り組み** 👉 企画部門、施策担当課

- ✓ 子育て分野に資源を集中



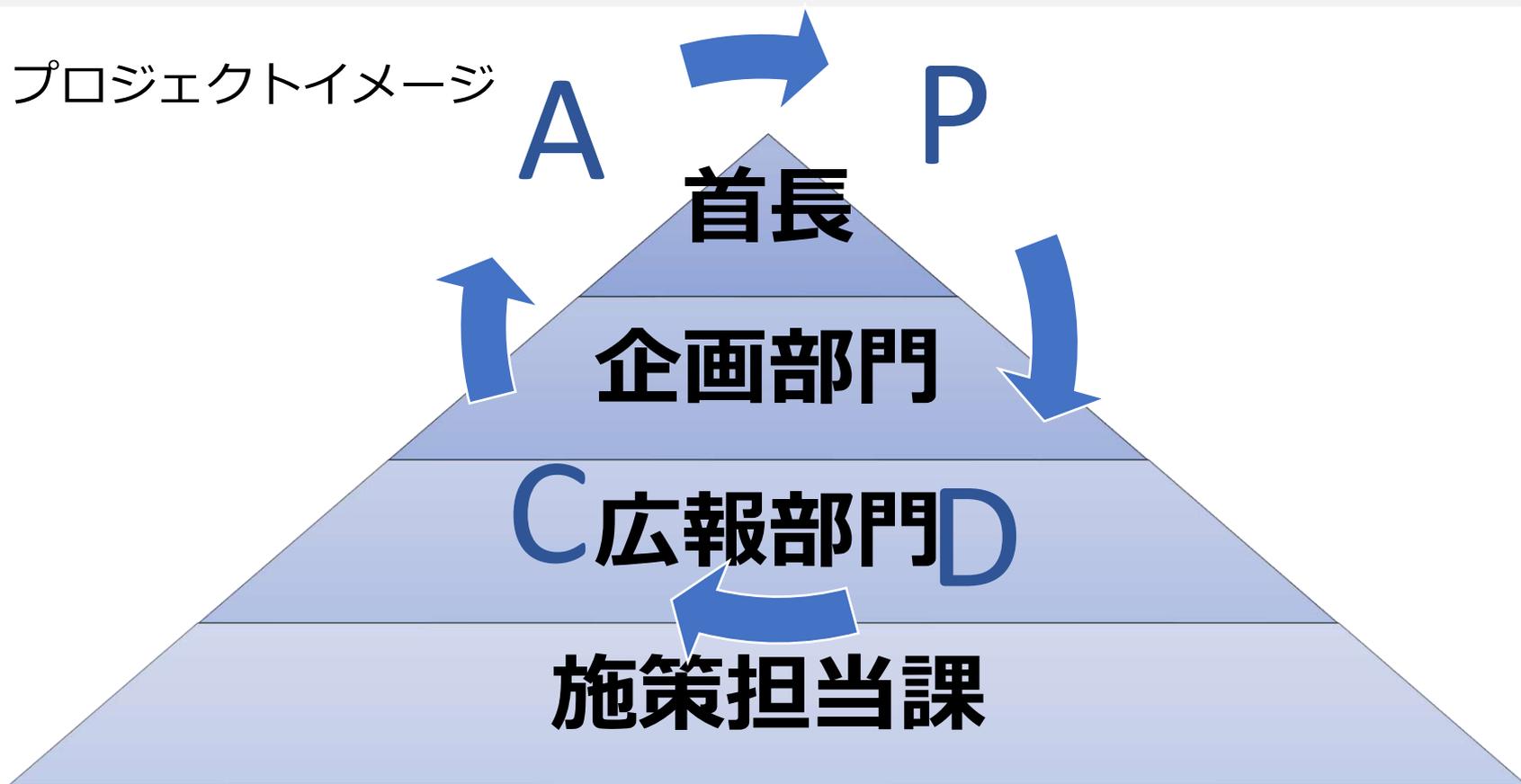
➤ **情報発信を強化** 👉 広報部門

- ✓ 情報発信を広報担当課に一元化

提言① 子育て世代に全集中プロジェクト

概要

子育て世代向けの施策を全庁的に展開し、「子育て世代を呼び込む」仕組みづくりを行う。



具体的な提言①

解決策 奈良市の成功例を参考に、社会増達成の仕組みを作り、実践する。プロセス、取り組み内容、担当部署を整理した。



具体的な提言①

ポイント

- ✓ 子育て世代をターゲットとする施策を多数展開する
- ✓ 全ての施策を子育て世代向け施策に紐づける
- ✓ 広報は魅力のあるまちのイメージを発信
- ✓ きめ細やかな情報発信と顧客対応

子育て支援

2022年版「共働き子育てしやすい街ランキング」(日本経済新聞社と日経BP)で奈良市が関西1位👑に選ばれました

- ✓ 令和4年4月に総合的な子育て施設「奈良市子どもセンター」を開設!
- ✓ 第2子目以降の利用者負担額(保育料)を無償化
- ✓ 市立保育園・こども園 オムツ持ち帰りなし **楽子♪**
- ✓ 子育て親子の交流や遊び場の「子育て広場」が市内に30カ所以上
- ✓ 保育園等でおむつ・おしりふきが使い放題 **おむつ月額定額制サービス**
- ✓ コットベット導入でふとんの持ち帰りが不要に
- ✓ 保育園とのやりとりをアプリ「コドモン」で簡単に **全国初**
- ✓ 学童保育で夏休みでも昼食が食べられる






住みたいまちが奈良でした

ならりずむ。

Nara Lifestyle Book

Nature | Peace | Child care | Style | Education | Job | Event

Take Free



子育て

全ての赤ちゃんのいるお宅に「こんちは」

子育てするパパ、ママを支えるまち

子育ての不安な瞬間をすまいる!

全額初! 子育てで家族が食べられる!

奈良市へ移住し、奈良市の第一歩

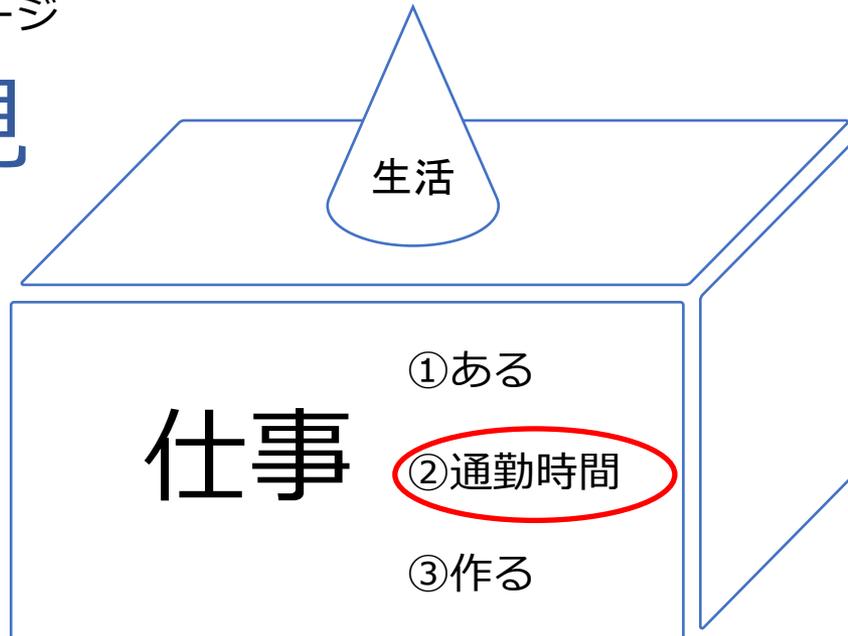
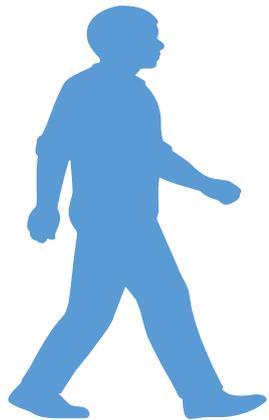
提言② 通勤時間短縮プロジェクト

概要

若者、子育て世代に対して、通勤時間を短縮する

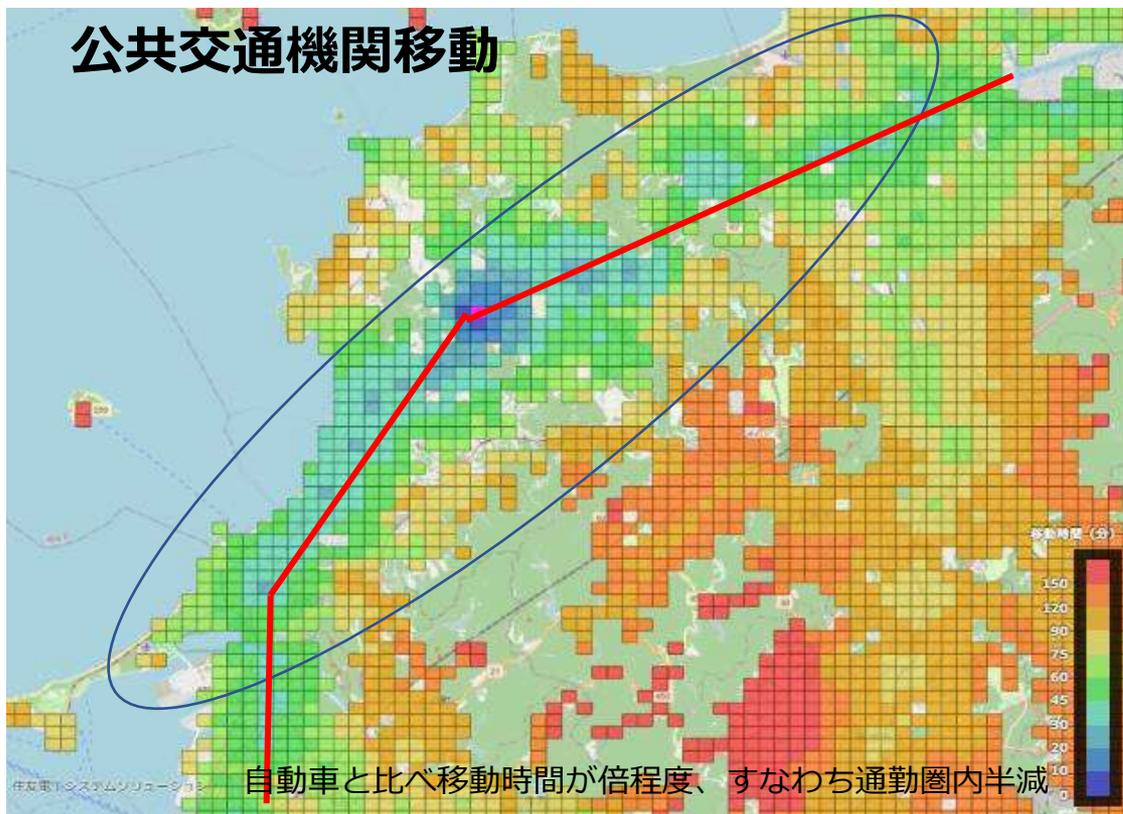
プロジェクトイメージ

発見

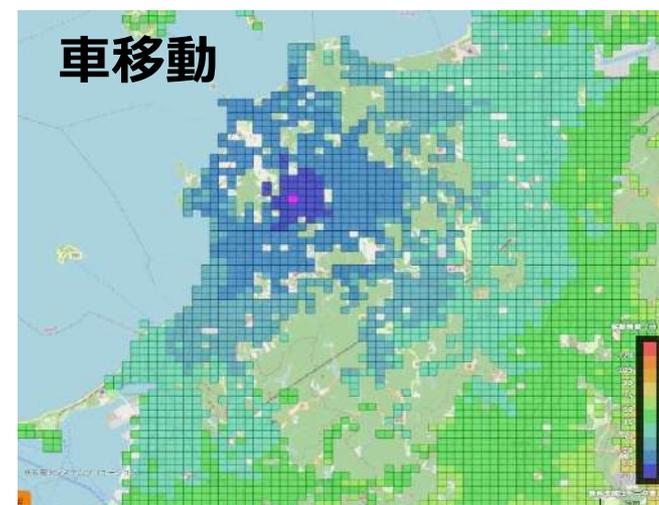


**住みやすい、
住みたいまち**

② 通勤時間を短くし通勤圏内を広く



— : 鉄道路線



RESAS ・まちづくりマップ 近距離移動時間分析

移動時間を考えると、公共交通機関利用者は鉄道駅周辺までしか働けない。

→住環境が良い + 通える範囲を拡大し、仕事の母数を増やす

「電車に乗るまで」「電車を降りてから」が重要

解決策

- 1 ライドシェア、乗り合い推進**
駅までの小集団乗り合いを推進。
沿道に簡易タクシープールとなるような
ポケットパーク設置。ベンチ、憩いの共有化
使われていない小規模街路公園の簡易タクシープール化
- 2 ラストワンマイルに電動スクーターを活用**
道路通行時の安全性向上、自動車・自転車・歩行者のすみ
わけ明確化。
公共交通機関に大荷物置場を設置、輪行推進。

おわりに

感謝

ご清聴ありがとうございました

まちづくりに力を入れている団体を調査する。

● 後藤好邦氏 （山形市職員）

- まちづくりや地域活性化に資する人材育成を目指して活動を行っている**東北まちづくりオフサイトミーティング（東北OM）** 発起人のいる自治体
- 東北OMの会員数は、約1,000名。その内訳は、行政職員、民間企業の社員、NPOや大学の関係者など多岐にわたる
- **定期的に勉強会**を行っている

● 後藤好邦氏 （山形市職員）

➤ 東北OMはまちづくりに寄与しているか

- ✓ 東北OMはプライベートな取り組みなので行政のまちづくりとは直接的な関わりはない。
- ✓ 東北OMは自治体職員の自主的な学びの場。世の中の速さについていくためには行政職員には学びが必要であり、その場が多く必要。
- ✓ 行政へ直接反映させない理由は、オフィシャルではできない自由があり、多様な形で活動ができる。
- ✓ ニーズや手段の多様化を外と繋がることで知る。

➤ 行政と東北OMの関連についての具体例

- ✓ 東北OMでSIMULATION2030（対話型自治体経営シミュレーションゲーム）を学んだ酒田市職員が総合計画策定に際して住民にゲームをしてもらい、その結果を計画に取り入れた。
- ✓ インターネットに出ていない情報を、信頼できる仲間からいち早く収集することで、新型コロナワクチン接種の接種率を上げることができた。